

昼寝をし、夜眠る、

晝

ひる

は
眠

ねむ

り
夕

よる

は
寐

い

ぬ、

夕

寐

晝

眠

藍

らん

筍

じゅん

と

象

ぞう

床

しょう

あり。

青い若竹で作ったむしろを敷物としたり、象牙で飾った寝台で眠る。

象

床

藍

筍

覃

陽

● 真

弦楽器に合わせて歌をうたい、酒宴を開く時は、

絃

げん

歌

か

し

酒

しゅ

宴

えん

す、

酒

絃

宴

歌

先

歌

杯をまじえ、酒を注いだ杯を挙げたりして楽しむ。

杯

はい

を

接

まじ

へ

觴

しょう

を

舉

あ

ぐ。



陽

灰

手を上げ足を踏んで踊れば、

手

て

を

矯

あ

げ

足

あし

を

頓

ふ

む、



心は楽しくもあり安らかになる。

悦

えつ

豫

よ

して

且

か

っ

康

やす

し。

且

康

悦

豫

●魚

陽

●魚

嫡

てき

後

こう

は

嗣

し

續

ぞく

し、

長男としてその家の子孫たる者は、
代々血統を絶やさぬようにつとめ、

嗣

續

嫡

後

四季ごとの祖先のまつりを催行しなければならない。
（春は祠、夏は禱、秋は嘗、冬は烝。）

祭

祀

蒸

嘗

す。

さい

し

じょう

しょう

蒸

嘗

※嘗と同字

祭

祀

蒸

陽

祭祀では額を地につけて二度深く礼拝し、

稽

けい

顙

そう

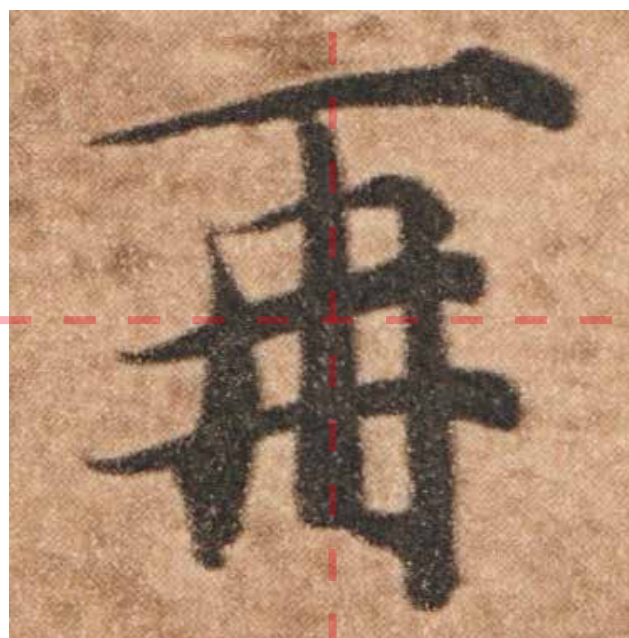
再

さい

拜

はい

し、



齊●

祖先をおそれ、かしこみ敬い、拝む。

悚

しょう

懼

く

恐

きょう

惶

こう

す。

恐

悚

惶

懼